

テーマ別パスファインダー



分野別レポート入門

文学編



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2020年1月14日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングcommons るくす | LSチーム

I. 文学系レポートの特徴

＜ 文学系レポートを書くときに陥る問題

① 何を書いたらいいのか分からない…

➢ レポート課題のテーマが広すぎる…

(ア) 『ライ麦畑でつかまえて』について、自由にテーマを設定し論じなさい。

(イ) ヴィクトリア朝時代の英文学の中から1作品選び、分析しなさい。

(ウ) 村上春樹の作品を読み、自由に分析しなさい。 などなど

② 感想文との違いって何？感想文じゃダメと分かっているけど感想文になってしまう…

③ 頑張ってるけど、そもそも自分が書いているこれって正しいの？

以上の3つは、誰しもが直面する問題ではないでしょうか？

どうすればこれらの壁を乗り越え、よりよい文学系レポート執筆へとたどりつけるのでしょうか？

＜ 解決の糸口

上の①～③のお悩みに対する簡単な答えを見てみましょう。

① 文学系レポートでも、他分野同様「自らの問い」を立てることが重要です。したがって、教官から与えられるいい加減で抽象的すぎる課題を己の手で切り崩さねばなりません。しかし、この「問い」を立てることほど、文学系レポートにおいて難しいことはありません。逆に言えば、「問い」が見つければ、レポートの土台は完成と言っても過言ではありません。

② だれしも感想を持ちますが、感想だけを書いて終わりではレポートにはなりません。ただの感想文をレポートにするもの、それが上で述べた「問い」です。とはいえ、何かしらの感想を持ったところ、面白いと思ったところにこそ、レポートの「問い」の種があります。感想はレポートから排除すべき存在ではなく、むしろテーマを教えてくれる強い味方です。

③ 文学系レポートに限らず、人文学系のレポートには正解がありません。重要なのは①で挙げた、「自らの問い」に対する「論拠」を示しつつ、いかに読者を納得させられるか、です。また、文学系レポートの特徴として、様々なアプローチが可能なため、レポートに個性が出ることも挙げられます。このユニークさも重要な要素です。したがって、あなたのレポートの価値は、正しいかどうかでは決まりません。正誤の判断は、書いた側の苦労も知らない読者が勝手にやってくれます。筆者側の我々は、ユニークな「自らの主張」を、いかに説得力を持って述べるか、という点に徹しましょう。

以上が、文学系レポートの特徴と、図らずも文学系レポートを書く時の心構えまでをも述べたものになります。とはいえ、具体的に何をすればいいのか？という問いにはまだお答えしていません。次のセクションで考えていきましょう。

II. 文学系レポートの執筆（準備編）：実際に何をすればいいのか？

＜ テーマを決めるために読む！

まず、作品を読む時の注意事項です。ただ漠然と読むだけでは、何も得られず、結局読み直しで、時間の無駄です。1回目から、自分が気になったところをメモしたり、付箋をつけたりしていきましょう！どこを気にしたらいいかって？なんでもいいです！この出来事は大事ななとか、この男はダメだなとか、あの子成長したなとか、このイメージめっちゃ出てくるな、とか…。
注目すべきは、何か「！」とか「？」とか「…」ってなったところですよ！

＜ さあ、テーマを絞りましょう！

作品を読み終わったら、テーマを考えていきましょう。ここで大事なのは、あなたが気になった素朴な疑問から自由に発想することです。作品を読んだ時に注目したところで、ここはレポートにしたい！という箇所がいくつかあったと思います。それらを活かせるように、下に挙げた、テーマを絞るための視点の例を踏まえて、レポートのテーマを決定しましょう。

1. 「この作品における〇〇とは何か？」に着目

繰り返し現れるキーワードやモチーフ、作品のタイトルなどに着目して、そこに込められた意味を探っていくパターン。

2. ある登場人物に着目

登場人物1人をピックアップし、その登場人物の名前の意味や、どんな人物として描かれているか、どんな環境で育ってきたか、作品を通してどのように変化しているか、他の登場人物との関わりはどう変わるかなどを探っていくパターン。

3. 登場人物間の関係性に着目

登場人物間の関係性を、人種、階級、ジェンダーなどの視点から分析、もしくは、親子関係、子弟関係、ビジネス関係、恋愛関係などの関係性に当てはめて分析していくパターン。他にも、人物間の関係性の変化、その関係性の功罪なども分析できる。

4. 作品の設定に着目

作品の設定年代や場所、ある場面での天気や季節、映画であれば使われている色などに着目し、それらがその場面・作品全体とどう絡み合うかを探っていくパターン。

5. ある出来事に着目

ある出来事をきっかけに、人間関係が変わったり、人格が変わったりすることもしばしば。その出来事が作品中において持つ意味について探っていくパターン。

6. 文体/比喩表現/韻律に着目

その作品に特有の文体や比喩表現を探っていくパターン。詩なら音韻分析もできる。

この中の1つだけを使ってもいいし、いくつかを組み合わせることもできます。もちろんこれ以外に着目できる点はたくさんあります。例えば、他の学問領域で用いられている考え方を、文学研究に応用することも可能です。心理学、経済学、経営学、倫理学、哲学、政治学、歴史学、社会学など、使えそうな考え方は使ってみると、ユニークなレポートになりますよ！

III. 文学系レポートの執筆（執筆編）：さあ、書き始めよう！

無事にテーマ設定を終えたら、執筆を始めましょう！レポートの書き方全般については、他の参考書に譲るとして、ここでは文学系レポート執筆における重要な点をいくつか挙げたいと思います。

- 文学系レポートで重要なのは、自分の立てた「問い」の論拠が、自分が読んだテキストに存在することです。思い込みや想像で論を膨らませないように、論拠となる点は引用したりして、説得性を高めましょう。
- 分析対象の作品は何度も読み直しましょう。繰り返し読んでいるうちに、気付かなかったところに目が行き、レポートに新たに組み込める内容が増やせたりもします。
- 他の人の論文なども読んで、必要に応じて引用してみましょう。作品や作家についての概説書や研究書は図書館に蔵書があるので、それを読むことをおすすめします。また、CiNii などを使って論文検索を試みたり、授業担当の先生におすすめの文献を借りて読んでみたりすると、アイデアがさらに深まりますよ！

IV. 参考文献

まずはこの本！必読！！

小野俊太郎『英米小説でレポート・卒論ライティング術』松柏社、2013年

小野俊太郎『映画でレポート・卒論ライティング術』松柏社、2011年

廣野由美子『批評理論入門：「フランケンシュタイン」解剖講義』中央公論新社、2005年

ちょっとレベルアップ！文学理論についてはこの本がおすすめ！

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（柴田元幸、斎藤兆史訳）白水社、1997年

林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』東京：岩波書店、2009年

ジョナサン・カラー『文学理論』（荒木映子、富山太佳夫訳）岩波書店、2003年

森岡裕一（編）『西洋文学：理解と鑑賞』大阪大学出版会、2011年

大橋洋一『新文学入門：Tイーグルトン「文学とは何か」を読む』岩波書店、1995年

トーマス・C. フォスター『大学教授のように小説を読む方法』（矢倉尚子訳）白水社、2010年

筒井康隆『文学部唯野教授』岩波書店、1990年

大学院を考えている人、崇高なレポートを書きたい人向け！

T. イーグルトン『文学とは何か：現代批評理論への招待』（大橋洋一訳）岩波書店、1997年

ピーター・バリー『文学理論講義：新しいスタンダード』（高橋和久訳）ミネルヴァ書房、2014年

The Modern Language Association of America『MLAハンドブック 第8版』（フォースター紀子、トーマス・マーティン共訳）秀和システム、2017年